

全仏

NO. 232

10 / 52



仏跡シリーズ ③

＜ロトカワの河原＞

ブタガヤから北方五キロほどいった所の尼蓮禪河の中
洲に、ロトカワという所がある。仏陀の古行地だと現地
では言われている。（カメラ・松本栄一）

財団法人 全日本仏教会

昭和52年10月1日

仏教を現代に生かそう

全日本仏教徒会議

埼玉大会、七日開く

記念の行事もにぎやかに

第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会は、十月七日午前九時半より、埼玉県浦和市の埼玉会館において開催されます。地元埼玉県仏教会の努力により、すつかり準備は整って大会を待つばかりのはこびとなりました。また大会の盛り上げとして墨蹟展や地区仏教徒大会などが記念の行事として行なわれ、いずれも盛況でした。多数仏教徒が参加されんことをお願い申し上げます。

叡智の結集を望む

埼玉県仏会長 大島 見道



私たちは、全一仏教の立場から、常に大同団結、仏教精神の昂揚、教化の拡充、福祉社会

世相の混乱、人心の荒廃、人命軽視、環境破壊など、枚挙にいとまなく、これら人心の不安に対して、二千五百年前、釈尊の説かれた「み教え」を、いかに生かして対処すべきか。これが本大会の重要課題と存じます。

ねがわくは、大会において結集せられたる諸賢の叡智をもって、仏教活動のあり方を示し、社会生活の一大指針たらしめられんことを、切願してごあいさついたします。

盛会の「墨蹟展」

埼玉大会の記念事業として企画された「現代名僧墨蹟展」は大会に先立って、

九月十五日より二十日までの六日間、大宮高島屋において各宗派管長・宗務総長などに揮毫いただき、半折・色紙など六百点が展示された。

十五日のオープニング式典は

秦朋友大宮市長のテープ・カットではじまり、別所弘因宗務総長（智山派）、岩堀至道事務総長（全青協）ら来賓出席の中で、大島見道埼玉仏会長、大宮市長、高島屋店長が挨拶した。その後二十日まで「仏心の世界」が広がる会場に、多数の人々が足をほこんだ。

会場で二つの展覧会

仏教幼児画展 十月五日より大会日の七日まで埼玉会館にて、かわい子供たちの絵を展示いたします。

文書伝道資料展 宗派、県仏、団体や地域仏教会、各寺院において発行する会報、寺報、ハガキ伝道などの文書伝道の力作を、大会当日の十月七日に埼玉会館にて展示いたします。布教の一助としていただきたいと思ひます。

各流讃仏歌奉詠大会

埼玉県仏教会では埼玉大会を記念して「第二十九回各流讃仏歌奉詠大会」を、

九月八日午前十時より、大宮市の商工会館ホールで開催、八百名が参加した。

大会は仏教徒和讃、観音讃仰和讃のあと団体奉詠があり、つづいて法要のあと真言宗智山派・別所弘因宗務総長が記念法話し、各流模範奉詠があつて閉会。

北埼玉地区仏教徒大会

若林隆光先生が講演

埼玉県仏教会は、加須、羽生、行田の三支部の協賛を得て、埼玉大会の記念として「北埼玉地区仏教徒大会」を、九月三日午後一時半より、行田市中央公民館ホールで開催した。埼玉県仏・大島会長の挨拶のあと記念講演として二松学舎大学・若林隆光先生（全仏文化専門委員）が「仏教徒の生き方」と題し講演された。

東部でも地区大会

記念講演は金岡秀友先生

埼玉東部地区仏教徒大会は、埼玉県仏教会の杉戸、加須、越谷、久喜、草加、春日部など十九支部が参加し、七月五日午後一時より、岩槻市の坂東観音十二番札所・慈恩寺に四百人が参集して開催された。

第一部では大島会長が挨拶のあと、柳事務局長が大会趣旨説明し、第二十五回埼玉大会への協力を要請した。第二部では県内檀信徒二名が「私の仏教観」と題して信仰体験を発表、第三部の記念講演は金岡秀友教授（東洋大）が、仏教徒の実践は六波羅蜜にあると熱弁をふるわれ参会者に人生の指針をあたえた。

WFB日本大会

「外国からの申し込み状況

第十二回世界仏教徒会議（WFB）日本大会の開催にあたり、WFB本部よりブーン殿下名の会長告示が、世界各国の加盟地域センターに発送されたので、これにもつき全日本仏教会では、全ての地域センターに対して代表団（正式代表二名、オブザーバー三名）を送るよう正式招待状を出して参加を呼びかけた。なお非公式オブザーバーの参加もあわせて要請する一方、海外開教の日系仏教団体に對しても、日本大会に参加を勧める招待状を発送した。現在、代表団派遣の希望申込みが続々よせられ渉外部でとりまためており、この申込みにより、このあと参加地域センターに参加者数、代表名とオブザーバー名、住所などの手続きをとれるよう書類を発送することになっている。

九月二十日現在の大会参加申込みのセンターは、ビルマ・マンダレーセンター、フランスセンター、香港仏教連合会、インド・ベンガルセンター、マレーシア・セランゴールセンター、韓国・曹溪宗、バンクラデシセンター、シンガポールセンター、スエーデン・ストックホルムセンター、タイ・青年センター、アメリカ

勸募第三委員会開く

特別寺院選定など協議

勸募第三委員会（小林忍戒委員長）は九月九日午後一時より、京都・和順会館において、八名の委員が出席して開催さ

各都県の努力目標額

第一、第二勸募委で協議

勸募委員会は九月十三日午後二時より第一（久保盛委員長）、第二（郡司委員長）合同で開催され、次の事項について協議された。

①勸募目標について

種々の考え方があがるが、予算以上の目標を設定しないと危険があるので、当委員会としては努力目標として、次の通り了承された。

東日本勸募努力目標額（特別寺院協賛

れ、次の事項について協議した。

①関西府県特別寺院選定について
前会議（六月二十三日）において、当該府県に、特別寺院の選定と勸募委員の増員の依頼をすることが認められ、依頼書を送付したが回答が少なかった。委員会としての選定はむずかしいので、府県仏の会長・事務局長等にご参集願ひ、当委員会を事務局と合同会議をもって検討協議することとなった。

②関西府県別勸募額割当額について
原則として府県仏会員数の按分比例にて割当てることを認められた。府県仏会員数の現況の把握が出来ないので、府県仏の会員数一覧を事務局にて作製し各委員に送付することが依頼された。

③その他 大きな事業を行うので、種々組織間の連絡提携を密にするようとの注意があった。

金を含む）一三重・福井以東一

東京（三千万） 神奈川、北海道（以上一千万） 埼玉、千葉（以上五百万） 長野、静岡（以上三百万） 栃木、山梨、茨城、群馬、新潟、青森、山形、岩手、愛知、三重、岐阜、福井、石川、富山、秋田、福島、宮城（以上二百万）

②勸募実動について

目標額をブロック会議、各都道府県仏と折衝の上、納得の上で最上の方法をもつて行動する。

て行動する。

③記念品について

前回の委員会で了承されている区分に一〜五万（ネクタイピン程度）、二十〜五十万（香盆か黄金菩提）、五十万以上（金色宝塔）を加える。また記念品の作成は事務局が全体の進行状況を計って行う。

三つの項目話し合い

副委員長会議開く

八月三十一日午後二時より、全日仏会議室において、副委員長会議が開かれ、次の事項について話し合われた。

◎各委員会の委員長会議について、大会準備をより円滑にするため、少なくとも毎月一度は委員長会議を開催すべきであるとの意見がだされた。

◎報道関係に発表する件 報道関係等へ発表する場合は、スポークスマンをおき発表すべきである。

◎その他 歓迎大会場について、歓迎レセプションについて、ポスターについてなど細目について協議された。

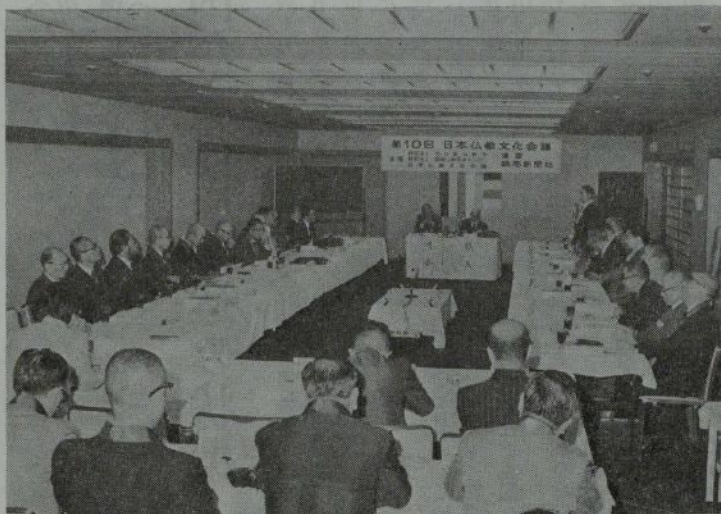
接待・会議委員会

接待（板橋委員長）・会議（金岡委員長）合同委員会は、九月十日午前十時より全日仏会議室で開かれ、旅行業社・会議会社の見積り書などの検討したが、渉外部との兼ね合いもあるので、より検討を重ねることとなった。また会議の方は会議の持ち方など細目にわたるため、小委員会が概要を練ることとなった。

第10回 日本仏教文化会議開く

研究事項、三点にしぼって討議

写真上は開かれた文化会議下は
あいさつする宮本議長



全日本仏教会（全日仏）と国際仏教交流センター（IBEC）主催による「第十回日本仏教文化会議」は、八月二十五日午前十時より、東京・芝の東京グランドホテル（ソートービル）を会場に、仏教学者・宗派教化担当者など二十六名、主催の全日仏・IBECより二十名、後援の読売新聞社など報道四名が参加して開催された。

この文化会議は昭和四十三年の第一回以来、「アジア開発と仏教」「生命科学と仏教」「人類の未来と仏教」のテーマ

について、活発な討議を重ねてきた。本年は第十回目を迎え、総合的な討議と明年秋に開催される「世界仏教徒会議日本大会」へむけての提言を含め、テーマに「仏教徒は現代に何をなすべきか」をとりあげ、研究事項は ①仏教徒の指向する未来社会、②世界仏教徒の連絡と提携の強化策、③アジアの現況と仏教徒の使命、の三点にしぼって討議した。

開会は全日仏・芳賀達常務理事とIBEC・岡本輝勝理事長が主催者を代表して挨拶、つづいて文化会議・宮本正尊議長が「表面的言辞でなく、実践する方途を考えなくてはならない」と挨拶。

仏教徒の指向する未来社会

このあと同会議・真漢義貫運営委員を司会に①「仏教徒の指向する未来社会」

から討議に入り、「日本大会を機に『世界仏教徒憲章』のようなものを作り、具体的な行動で世界に発言していくべきである」・「日本仏教徒はリーダーシップをとるべきだ」・「交換留学生についてもっと考えるべきである」などを含め、昨年までの「人類の未来と仏教」の総合的な話し合いとなった。

世界仏教徒の連絡と提携の強化策

つづいて、②「世界仏教徒の連絡と提携の強化策」の事項に移り、「日本仏教の国際化のために積極的に伝道すべく欧州にも目をむけるべきだ」・「南方仏教国での欧米諸国で活発に伝道する姿はみならうべきだ」・「まず日本仏教徒自から姿勢を正し、海外に日本仏教を広めよう」など海外交流促進の討議がされ、特に東南アジアと親交の深いIBEC・岡本理事長が、スリランカとの交流の現況を基として「東南アジア仏教国では、交流の意志は充分ある」と経験をふまえて提示した。

アジアの現況と仏教徒の使命

次に、③「アジアの現況と仏教徒の使命」では、「東洋思想、特に仏教への関心は非常に高い」・「物心一如の思想を打ちだすべきだ」・「まだ戦争終結せずの感が強い。アジアの現況をよく知るべきだ」・「社会主義国のラオス、カンボジアなどとの交流はどうするか」などアジアの現況に日本をとる姿勢が討議された。

最後に宮本議長が総括して「①シンポジウム・学会など総合的研究の場を設置

参加者一同打ちそろって記念撮影



出席者（順不同・敬称略）
佐々木教悟（大谷大） 山崎昭晃（龍谷

する。②仏教徒が行動・実践を行う目標・方法を掲げる。『仏教徒憲章』をつくり世界平和をアピールする。③国連および世界各国団体にPRするための資料を整る。④世界との交流を深めるため、釈尊の教えを生かし、創造への努力をし実践する——とまとめ、明年のWFB日本大会へ、具体的に四つの提言を示した。

閉会式のあと、同会場で懇親会がもたれ、WFB日本大会事務局・麻布照海総局長が挨拶、明年の大会へむけての色々な懇談がなされ閉会した。

世界仏教徒会議へ 四提案を打ち出す

読売新聞
報道

大）勝又俊教、塩入亮達、中村康隆、斉藤昭俊（以上正大）、佐伯真光（相模工大）栗田伸美、鎌原佑元（以上曹洞宗）加藤昭昭（智山派）鴨志田秀純、加藤精一（以上豊山派）山田光成（日本信販会長）麻布照海、若林隆光、白川良純（以

上WFB関係）中根専正、門屋大寿、井上日宏（以上文化専門委）宮本正尊、西義雄、雲井昭善、藤吉慈海、真溪義貴、麻尼清之（以上運営委員）鄭学權（オプザバー）

「仏教徒は現代に何をなすべきか——世界仏教徒会議への提言」をテーマに、第十回日本仏教文化会議（全日本仏教会国際仏教交流センター主催）が、二十五日、東京・芝の東京グランドホテルで開かれた。来月十月 日本で三十四か国が参加して開催される第十二回世界仏教徒会議（WFB）日本大会に対応するため

はない。東南アジアからみれば、いま榮えていけるのは悪いことをした人間という気持ちがある。日本の仏教徒は深く反省すべきだ」「世界仏教徒と本格的に提携するつもりなら、中国や北朝鮮などの参加も念願していることを大会で表明すべきだ」といった意見が目だった。

「仏教徒の指向する未来社会」「世界仏教徒の連絡と提携の強化策」「アジアの現状と仏教徒の使命」の三つの研究事項をめぐって、雲井昭善大谷大教授、佐伯真光相模工大教授など仏教学者、宗派の教化者代表二十八人が討議した。

最後に、宮本正尊東大名誉教授（同会議議長）が、会議を総括して①具体的テーマを研究するシンポジウム、研究会、学会を開催、実践者の総合的会合の場をもつようにする②仏教徒が、行動、実践する目標、方法を掲げる仏教徒憲章をつくる③全日仏加盟教団は、国連および世界にPRできる内容をもり込んだ資料をつくる④世界文化と仏教との交流を深め釈尊が体得して説かれた思想、生活と宗教（禅と念仏）の三つを主体的に実践しよう、と述べた。四つの提言は、WFB日本大会にとって必要な最低条件であるう。

数々の提言がなされ、「南方仏教は積極的に民衆の中に入って伝道しているし西ドイツにも資金を集めて僧を派遣している。日本では浄土真宗本願寺派に基金づくりの運動があるが、他の教団も世界仏教徒のために伝道し、さらに行きつまた欧米文化の危機を突破する糸口となれ」「三十三回忌で戦争を忘れるべきで

（八月三十日付、読売新聞夕刊）

経本製本専門

一英堂製本所

島田 育英

小口寸法一寸五厘より、天金物その他御注文より製本お請致します。

東京都板橋区赤塚4-29-17
〒175 でんわ03 (938) 3806

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 浜田商店

東京都台東区寿2-10-9（地下鉄田原町駅前）

電話 代表 (841) 4965

地域に根を下した布教活動

お経を習おう運動

岐阜県仏で十周年大会

地域に根をおろした布教活動を展開する岐阜県仏教会（大石好文会長）では、八月二十三日午後一時より、岐阜市民会館に二千人が参加し『みんなでお経を習いましょう』十周年記念大会を開催した。

この「お経を習おう運動」は、第十五回全日本仏教徒会議岐阜大会の時に提唱され、岐阜県仏、市仏、檀信徒会が「祖先を敬い、父、母を大切にし、幸せな家庭をさすくためにみんなで」お経を習い

ました。この「お経を習おう運動」は、第十五回全日本仏教徒会議岐阜大会の時に提唱され、岐阜県仏、市仏、檀信徒会が「祖先を敬い、父、母を大切にし、幸せな家庭をさすくためにみんなで」お経を習い

二十三日を迎えた

長野県仏教徒会議

「松本大会」ひらく

長野県仏教徒会議は回を重ねて二十三日。今年「松本大会」と称し「信心の輪をひろげよう」をメインテーマに、九月十三日午前十時より、松本市浅間温泉の社会文化会館において、長野県仏教会と地元信濃中央仏教会の主催で開催

された。開会式では、新しく会長となった三浦義興会長の大導師で先師法要のあと、武田亨全大会委員長（信濃中央仏会長）が挨拶。つづいて議事に入り、①日常生活に仏教を生かそう。②若人の心に仏教をの二議案を審議した。

このあと薬師寺の高田好胤管長が「日本人らしく」と題して記念講演を行ない、大会宣言の発表、次回開催地挨拶で閉会した。

全日仏青、埼玉結集

6日に浦和プラザホテル

金岡秀友教授が講演

新生の全日本仏教青年会（全日仏青）

は、平原理事長、鈴木事務局長らの尽力で着々とその体制を整え、金沢市仏青につづき長野県仏青が正式加盟、これで十九団体となり盛り上りを見せている。

その全日仏青は、八月二十六日午後二時半より、浦和市・埼玉会館において常務理事・理事會を開催し、理事長挨拶、事務局長議案説明のあと審議に入った。

一、全日仏青結集の件
ほぼ事務局案が承認され、最終実施方に関して事務局一任となった。（別項参照）
二、全日埼玉大会の件
第二十五回全日本仏教徒会議埼玉大会の青年部会は、部会長に平原理事長、副部会長に雲井副会長が、全日仏より委嘱を受け部会を遂行する。各団より参加をいただが、特に仏青指導者養成を考慮し若手の参加を促進する。

三、その他
WFBYについては、第十二回WFB日本大会に青年部会を開くよう依頼があ

った。またWFBY事務局設置の要請もあり、全日仏の指示をまって検討する。

全日本仏教青年埼玉結集

日時 十月六日 午後二時

場所 浦和プラザホテル

基調講演 「現代社会に仏教青年は何をなすべきか」 金岡秀友教授

意見発表 「仏青活動の現状と今後のあり方」

宗教教誨師の表彰式

八月三十日より九月一日の三日間、法務省第一別館ホールにおいて第十二回教誨師中央研修会が全国教誨師連盟主催で開催され、最終日の九月一日の式典において宗教教誨師の表彰が行なわれた。

全日仏関係の法務大臣感謝状並びに記念品受表彰者は次の方々である。

松村寿頭（日蓮宗）、丸山義淳（浄土真宗本願寺派）、塚本文爾（浄土真宗本願寺派）、林 勝臣（真宗大谷派）、北畠頭三（大谷派）、楠 昭雄（浄土真宗本願寺派）、松岡 仁（真宗大谷派）、秋永智徳（日蓮宗）、小野田章神（真言宗豊山派）、平岡隆然（浄土宗）

なお日本宗教連盟（理事長品田聖平氏）より感謝状と記念品を受表彰された全日仏関係の方々はこの通りである。

谷川徹禪（曹洞宗）、尾崎利生（浄土真宗本願寺派）、宇佐見節練（浄土宗）中村正彦（日蓮宗）、菊地了俊（真宗大谷派）、内平義雄（浄土真宗本願寺派）

埼玉県佛教会

社団法人「埼玉自彊会」（更生保護事業施設）の大正六年頃の通常総会が県庁うらの赤十字社講堂で開かれたとき、来賓として出席した岡田知事が、祝辞のあとで「坊さんは説教のあとさてという」という川柳をだして、椰掄（やゆ）したという。葬式ばかりして寄進あつめに余念がないと皮肉ったのであろう。これに憤激

県仏紹介

した「埼玉自彊会」役員の有志が、浦和の玉蔵院に集まって協議し準備をととのえて、埼玉県佛教聯合会を発足させたというのである。（木村秀雄節談）

〆八十余年前に更生施設

社団法人「埼玉自彊会」というのは八十余年前の明治二十三年一月、ときの県会議長大島寛爾氏を中心に、豊多摩刑務所浦和支所の宗教教誨と免囚保護を担当していた寺院有志が発起人となり、県下の各宗寺院へよびかけて、

創立されたものである。

創立時は、北足立郡六辻村（今は浦和市内）の真言宗豊山派真福寺を収容所として、埼玉県慈善会保護院と称していた。のちに浦和市高砂町四丁目百四十五番地に土地四百六十坪を購入し更生寮（四軒長屋）ならびに事務所・講堂・食堂などの瓦葺き木造二階建ての立派な施設ができ、県下各宗二千有余力寺の住職を会員とする社団法人に改組したのが、明治二十四年九月である。名称は「自彊不息」（易経）からとって「埼玉自彊会」と名づけられ

仏教運動の拠点、埼玉会館

更生保護施設解散の跡に建設

た。全国的な視野でいうと創立は全国第三位であり、社団法人化は全国最初である。

「埼玉県佛教聯合会」は、こうした下地があったので、なんなくすべりだしたと思われる。事務所も自彊会の事務所に同居させて事務員も兼務で、こゝとたりた訳である。各宗寺院の連合であるから、毎年度の会費も、自彊会費・佛教会費をあわせて県内各宗派の組織を通じて宗費とともに集めていた。

〆昭和十三年に不幸全焼

「埼玉県佛教会」の基礎をかため事

業を活発化するために、昭和十二年頃に財団法人化が進められ、資金集めが始められた（勸募芳名簿が現存）が、翌十三年に「埼玉自彊会」が、不幸、出火して事務所・講堂・食堂を全焼したために、この資金は自彊会の再建費にまわされた。

自彊会の再建は、東京の財団法人「原田積善会」の絶大な協力をえて、その建物を寄付され、東京から浦和へ移築された。面目一新、更に昭和三十年、創立七十周年記念事業として改築を行い、木工所をたてて三十人収容の更生保護事業施設となった。

しかし、県庁のすぐ南にあった浦和刑務所が、昭和四十四年十一月に廃止されたのを機に、社団法人「埼玉自彊会」も解散することになり、清算の結果、残余財産である土地・建物、そのまますくり、財団法人埼玉県佛教会に寄付された。（埼玉県佛教会は昭和四十三年十一月に財団法人になっている）

佛教各宗寺院が、力を合わせて自彊会を八十年間、守りとおし、更生保護に尽した（かど）をもつて、不動産を寄付され、地主になったが、宝のもち腐れでは申訳ないので、活用するために「埼玉会館」ができた。

〆四十九年の夏に完成

敗戦後から昭和四十七年三月まで、

十三期二十六年間も埼玉県佛教会長であった倉持秀峰師の発想のもとに、日本住宅公団や埼玉県住宅供給公社と、下駄ばきアパートや、高層マンションなど、いろいろ案が練られたが、最終的には、佛教会として必要な限度で、自力による会館建設ということにきまり、会員である県内寺院から一口一万円を、一口以上三口を基準に、六十支部に募金割当をし、そのほかに篤志寄付にも力を入れ、七千万円の募金に成功して、昭和四十九年八月に完成した訳である。

埼玉会館は

構造 鉄コンクリート二階建
延面積 五一九平方m（一五七坪）

一階 四室貸事務所、一室六〇平方m
二階 四室、事務所と会議室
となっており、事務所は埼玉県佛教会・埼玉県佛教保育協会・埼玉県寺院共済組合・埼玉県青少年教化協議会・埼玉県仏教青年会・埼玉県宗教連盟の各事務局がおいである。

全一佛教運動の拠点として、現在、毎月一回、新佛教講座または新佛教婦人講座、および写経会が開かれている。

第二十五回全仏大会を終えて、全一佛教運動の具体化が検討され、推進されることになっている。

（北之内真龍）

台湾仏教会の代表

釈星雲氏らが来日

—各本山を巡拝

釈星雲、釈聖印、釈浄心、翁茹葵、釈慈恵氏ら台湾仏教会の代表五人が、九月四日午後四時、羽田着で来日した。

一行は仏教友好親善の促進を目的として来日、東京では増上寺、浅草寺、護国寺、池上本門寺、鶴見総持寺などを訪問し、参拝旁々関係者と懇談した。九月五日は午後六時から、全日仏主催の歓迎夕食会（東京グランドホテル）、翌六日には台湾仏教会主催の夕食会（ホテルニュージャパン）が開かれ友好を深めた。

一行はその後、永平寺をかわきりに、京都・大阪などの各山を巡拝、十六日に帰途についた。

◇掲◇示◇板◇

▼曹洞宗大本山・総持寺では、岩本勝俊貫首の御退董、乙川璣映新貫相の御入山式札を左記により執行する。

十月十五日 午前十一時より退董式礼
十月二十一日午前十一時より入山式礼
▼真言宗御室派管長、総本山仁和寺門跡の小田慈舟大僧正の晋山式は 十月十八日午前十一時より仁和寺で執行する。

WFB事務局録事（九月）

五日 仏教英語研究会

九日 第三勸募委員会
十日 会議・接待委員会
十三日 第一・二勸募委員会
十九日 局内会議

事総総局録事（九月）

一日 都秋季慰霊法要参列
五日 台湾仏教会来日歓迎会
八日 仏教訪欧団出発
九日 善光寺晋山式出席
十三日 長野県仏教徒会議出席
十六日 第二十五回埼玉大会監事会
十七日 仏教訪欧団帰国
十九日 局内会議
二十六日 日宗連理事会

昭和53年版

「全仏手帳」

申し込み受け付け中

全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行致します。部数に限りがございますので、御注文はお早め。

内容 三帰依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録

忌日早見表、その他

サイズ 9×14 cm

定価 五〇〇円（送料実費）

出来日 十一月初旬

申込先 東京都台東区西浅草一―五

一五（千一―） 全仏総務局宛



大本山川崎大師平間寺

開創八百五十年祭

昭和52年11月1日(火)～11月5日(土)

大山門落成慶讃大法要修行

◆奉祝月間(11月中)

寺宝展、華道展、菊花展
呈茶席、俳句募集、写真
コンクール、他

電話 044(266) 3 4 2 0

